

地域密着型サービス評価の自己評価票

グループホームほたるの里II

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	私達は地域の中でその人がその人らしく尊厳を持って安心して暮らせるよう、思想、人権、性別及び貧富によってその人を区別することなく、人としての自由を最大限保障し、真心を持って接することに努めます。	○	基本理念を常に考え、職員での話し合いを持ち、個々のニーズに応えていけるようにサポートをしていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り・職員連絡簿・会議等で意見を話し合い確認して共有している。	○	現状に満足せず常に向上できるように職員等で話し合い、具体的なケアを心がけていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	A4版に印刷された理念がホールや事務所、玄関の掲示板に掲示され、同じ印刷物が家族に手渡され、入居、契約時に説明されている。	○	掲示板等に掲示された印刷物の内容をご家族や本人にわかりやすく伝えて行く。
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	門扉が開放されていて誰もが気軽に訪問できるように配慮されている。	○	近隣の住民の方々と入居者の方々の交流ができるように気軽に立ち寄ってもらえる環境づくりをしていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事、老人会と一緒に参加し、夏祭りには御輿など施設に来ていただき、また保育園児、ボランティアを受け入れられたり等の交流に努めている。隣組は特別組合員にもなっている。	○	地域の行事に積極的に参加すること、ボランティアや子ども達との交流を今後も続けて行く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の実態に合わせた取り組みをしている。また運営会議内での勉強も推進している。</p>	○	<p>地域内の方々への勉強会などの実施等により密着型の取り組みを考えていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価を出来る限り厳しく、外部評価を活かし、改善到達に向けて努力している。</p>	○	<p>現状に満足することなく、内部評価、外部評価を合わせ考え、常に改善向上させていきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に運営推進会議を行っており、メンバーからの意見や要望の根底にあるものを探して対応している。</p>	○	<p>サービスの向上を図るため、意見や提案の取り込みを実践していきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>2ヶ月に一度の割合で運営推進会議を開催し話し合い、地方自治体関係者との報告の中で実態を評価して頂いている。また代表が太田市介護保険事業者協議会役員をしており、その運営の中で市町村担当者と行き来し、サービスの質の向上を目指し、取り組んでいる。</p>	○	<p>今後とも自治体関係者とともにサービスの質の向上に向け、取り組んでいきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現行のセミナーに参加して権利擁護について学び、所内にも更なる勉強をし、必要な人には活用できるような支援に取り組んでいる。</p>	○	<p>成年後見制度や地域福祉権利擁護事業のいろいろなセミナーに参加し、職員一人ひとりが十分理解し、学び実践できるよう努力したい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>全ての職員は関係法令を学び、実際にそのようなことが起きないよう、小さな事も見過ごされないよう注意している。</p>	○	<p>いろいろな機会を利用し学び、人間の尊厳を高める事に努力し、虐待などの防止に努める。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に際して利用者とその家族に対して何を知らたがっているのか、何が不安かを知り、十分な説明を行い、その理解を得、納得を得た上で契約を結び、また解約の際もそのような対応に努めている。</p>	<p>○</p> <p>契約をする際、自分勝手な解釈に陥りやすいので、そのような誤解のないよう、説明を十分に行い、正確な理解と納得が得られるよう更に注意していく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の要望など、またそれに対する実践内容をご家族の皆様へ報告し、更にご家族の方の要望を吟味、実践している。また利用者の意見、不満、苦情などを聞き取る機会を設けている他、年に一度アンケートも実施し、それを運営に反映させている。</p>	<p>○</p> <p>利用者の訴えや態度からその思いを察し、受け取る努力をし、職員同士の緊密な連絡、話し合いから日々のケアに活かしていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族の訪問時には利用者の日常生活状況、健康の状態などの報告、ケース記録ケアプランなど確認して頂きサイン押印頂いている。金銭管理は金銭出納帳に記録の上、訪問時にサイン押印頂いている。体調不良時には随時報告し新聞は2ヶ月に1度発行報告している。</p>	<p>○</p> <p>利用者の健康等の報告を更に細かい事項まで報告できるよう努めていきたい。御家族に頻繁に来訪して頂けるよう一緒に参加していただけるイベントの計画などを回数増やしていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の家族が訪問時、また要望、意見等、機会あるごとに家族に対して市町村の相談窓口や国保連の相談窓口にて意見や苦情など表せることを伝えている他、アンケートも実施している。</p>	<p>○</p> <p>家族同士の集まりの場である家族会をつくり、その中で自由に意見を出せるような仕組みを取り入れていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回定例会議を開催し、業務改善について話し合い、また職員の意見、要望等について聞き、運営に反映させている。</p>	<p>○</p> <p>理事長と職員のミーティングの機会をさらに増やし、職員の意見を運営に反映させていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に応じた対応のため、管理者はシフトに入らず、緊急時、夜間、利用者の状態変化に応じた柔軟な体制がとれるよう配慮している。状況の変更にすばやく対応するために職員のフリーズナブルの時間を作成し対応している。</p>	<p>○</p> <p>毎日24時間、利用者を支えることが出来る様、職員同士、緊密な連絡打ち合わせを行い、また勤務に無理のないシフトをくんでいきたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>チームケアを行っているため、一人の職員の移動や離職により利用者のダメージはないと考えられるが、利用者の心配を最小限に抑えるために職員の移動は少なくなるように配慮している。また引継ぎには十分時間をかけている。</p>	<p>○</p> <p>管理者や職員のやむをえない場合の移動等による不安感を最小限に抑えるため、日常的に担当外の職員も常に利用者に対してスキンシップを行っておく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修についてはOJTを実施、その後は段階に応じて多くの職員に法人内外の研修を受けさせている。研修後は研修報告などを通して職員全体で勉強会をしている。	<input type="radio"/> 指導的職員の育成、また外部からの指導も取り入れ、職員全体のさらなるレベルアップを目指し、利用者や家族の満足度の高い支援をしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型連絡協議会において、レベルアップ交換研修を年1回以上実施しており、事業所以外での経験や意見を利用者への援助の向上に活かしている。また太田市介護保険事業者協議会でも研修を受け、ケアに役立てている。	<input type="radio"/> 同業者のいろいろな取り組みから、利用者に対する援助の知恵を学び、これからのケアに活かしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は職員の健康状態にも深い関心を常に抱き対応している。ミーティングや交流会を開き、気分転換や職員同士の親睦を図る機会を設けている。	<input type="radio"/> 運営者は職員とコミュニケーションをさらに良くとり、職員個々の悩みやストレス、心身の状況を把握していくようにする。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則があり、守られている。健康診断も実施、職員が向上心を持って働けるよう評価し、教育等の機会を設けている。	<input type="radio"/> 運営者は職員のための教育等の機会を更に多く設けていきたい。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所に際してはアセスメントで、必ず利用者に面談し、心身状況、利用者の思いを良く汲み上げて、できる限り不安等を取り除き、ご家族の方にも理解を頂くようにしている。	<input type="radio"/> 本人と信頼関係が築けるよう、本人の困っていること、不安などを良く受け止め、話を聴くようにしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族のお話を良く聴き、今何に困っているか、何を求められているかをきちんと把握し、どのように対応していくか話し合いをしている。	<input type="radio"/> ご家族のお話から今までの状況、心配事、不安などを良く汲み取り、話し合う中で信頼関係を築き、何を求めているのか受け止め、どのように対応していくか話し合いながら提案していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時には、本人と家族によく話を聞き、その時の状況から改善にむけた支援を提案、話し合うなかで、他のサービスも取り入れたりしながら、必要な支援体制に繋げるようにしている。	○	相談者には柔軟な対応を行い、まず必要としている支援を見極め、他のサービスにつなげることも考慮しつつ提案していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に事業所の見学をしてもらい、事業所の特色、職員の対応などを良く見ていただき、体験していただき慣れた上で入所して頂いている。また職員は人間関係づくりに特に気をくばっている。	○	利用者の心が常に安心感で包まれているよう物心両面より支えられるよう更に工夫していきたい。なじみの品を持ってきていただくなどして安心できる環境づくりにもとりくんでいきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のこれまでの生活スタイルを教してもらいながら、その人の暮らしぶりや喜び不安などを知ることに努め、人生の先輩として教えていただくという思いで関係者全員が学びあい共により関係がつかれるように取り組んでいる。	○	利用者との関係は一言でいうと家族のような父や母に対する心情で対応できるように職員一同取り組んでいる。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時にはホームでの様子、健康状態などを詳しくお話し、家族からも要望などを聞いている。またご家族の苦勞なども聴き、家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や気づきの情報を共有しながら一緒に支えている。	○	家族の思いに寄り添いながら、利用者の日々の出来事や、喜びなど家族と同じ思いになって共有しながら一緒に支えていくよう努めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人が、家族を求めている場合には連絡を取り、外出の機会を作っていただくなどに配慮し、また通院の際の付添などの協力もお願いしている。努めて本人と家族のより良い関係づくりを支援している。	○	家族の知らない利用者の姿等を報告したりしながら、家族と利用者のより良い関係をさらに発展するようにサポートしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	帰宅の願望がある時には帰るよう手配し、友人、知人の訪問は自由に来てもらっている。入所前の本人の人間関係、趣味等はできる限り配慮してサポートしている。	○	本人を取り巻く人間関係が途切れないように配慮し、また本人の思いを汲み取ることにより、これまでの生活習慣、行動を更に発展させ、新しい気持ちを持って頂けるようにしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員等が利用者のそれぞれの性格、行動をできる限り把握しており、利用者同士の感情の変化などに注意し、見守るようになっている。トラブル等はほとんど見られない。	○	利用者同士の良い関係のために会話等を助け、利用者同士が協力したり、お互いを思いやれるような形に発展させたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者の家族の数名とはイベントの時などいろいろな機会において連絡も取り合い、良い関係を継続している。	○	他の事業所に移られた場合においても、行事に招待するなど、関係を立たないようにしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望や思いを聞き取り把握し、それぞれの意向を重んじ、個性を大切にしている。	○	本人がどのような暮らし方をしたいか、その本意を汲み取りながら、それぞれの思いを反映できるような支援をしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のこれまでの生活歴、価値観、個性や嗜好などの把握に努めている。本人や家族にプライバシー等に配慮しながら聞いている。	○	日常の言葉や行動から、また本人自身から話を聞いたり、家族に話を聞くなかで本人のこれまでの生活歴、考え等の情報を少しずつ集めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの日々の過ごし方、食事、排泄、睡眠のリズムなどを把握している。利用者の力に応じた役割をしてもらっている。	○	利用者の心身の状態、出来ること、出来ないことに考慮し、その人を総合的に把握し支援していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者ひとり一人の課題に対して職員全員で話し合い、本人や家族、関係者の思いを考慮し、介護計画を作っている。	○	家族や関係者の思いをより多く取り入れて利用者の満足度がさらに増すように取り組んでいきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを3ヶ月に1回実施しており、継続が必要なケアについてはプランを継続し、変更が必要となった時にはプランの変更を随時ご家族と職員により見直し、現状に即した計画作成をしている。	○	常に良い方向への見直しを心掛け、変化の兆しへの予防的対応などのためにも細部まで見直していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルにそれぞれの、食事、排泄等身体的状況、生活スタイル、日常言語発生状況等を記録し、その情報を職員の間で共有し、個別計画を基にカンファレンスや介護計画の見直しを実施している。	○	本人とこれからもより多く接し、本人の言葉やエピソードなどを細かく記録し、職員の気づきなども記録し、役立てていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスの併設により色々なサービスに参加できる利点があり、レクリエーションへの参加、家族の都合が悪い時の通院などの他、医療連携体制を活かして往診してもらうこともできる。	○	地域への働きかけをもっと増やし、近隣の高齢者が状況に応じ、デイサービスやショートステイ等の利用ができるように幅広いサービスを提供していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員に運営推進会議に参加いただいている。消防避難訓練の際は通報訓練を消防署にお願いしている。21年度は消火訓練を実施した。	○	利用者が安心して地域で暮らせるように周辺施設へ働きかけをしていきたい。ボランティアの受け入れも行いたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理美容は訪問サービスを利用している。福祉用具の紹介をしてもらったり、購入をしたりしている。	○	利用者のニーズに合わせて公民館行事などにも参加できるように幅広いサービスにも対応していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護の研修に参加している。現在、成年後見制度を必要としている利用者はいない。	○	成年後見制度が必要と考えられる利用者に対しては地域包括センターと協力して支援していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医を選定している。受診や通院は本人や家族の希望に応じ対応している。訪問診療に来てくれている診療所もあり、適切な医療がうけられるよう支援している。	○	通院については家族の協力を必要としていることを説明し、家族が都合が悪い場合は職員が通院の代行することを契約時に説明し、同意を得るようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居時に主治医に診察を行って頂き、認知症の診断書をもっている。また協力医院の医師が定期的に訪問診療していただき、相談でき、適切な指示や助言を得ることができる。	○	近隣の認知症専門医を探し、連携体制とって行きたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員の中に看護師資格者がおり、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。また看護職員に医学について相談をし、知識を深めている。	○	訪問診療して下さる医師と看護職員のよりいっそうの連携体制がとれるようにしていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際には本人に対する支援方法に関する情報を医療機関に提供し、また入院中には職員が定期的に見舞いに行き、家族とも情報交換しながら、速やかな退院支援に努めている。	○	入院されている医療機関、家族と連絡を取り合い、協働体制をとりながら早期退院に向けて支援していきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについての説明を入所時に行っており、ご家族に確認している。重度化に伴う、終末期対応方針については主治医、看護師、家族、介護員等で話し合いをおこなっている。	○	本人と家族の希望を確認しながら、重度化に伴う意思確認書を作成し、対応できる最大のケアについて説明し、できるだけ当ホームで対応するようにしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを大切に、家族と話し合いを持ち、本人、家族、主治医、ケアスタッフ全員で事業所として「できること・できないこと」を見極めて一番良い支援方法を話し合い、取り組んでいる。	○	本人の意向、家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとりながら、安心して終末期を迎えられるよう、随時意志を確認しながら取り組んでいきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退去時にはケアプランや状況報告書を退去先に渡している。出来るだけ現在の状態がわかるように詳しく説明するように心掛けている。	○	これまでの暮らしが継続できるよう、支援の内容、注意が必要な点などについて詳しく情報提供し、きめ細かな連携を心掛けていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライドを大切にし、誇りを傷つけるような対応をしないよう注意し、プライバシーを守り、言動や記録に気をつけている。	○ 利用者個々のプライバシーを守り、プライドを損ねないような対応を心掛けていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	入居者の方の現在の状態や能力に合わせて自分でできること、したいことを自己決定出来るよう支援している。	○ 自己選択の場面をより多く作っていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に細かい日課は決めていない。利用者の現在の状態や気持ちに配慮し、一人ひとりが自分のペースで過ごせるように支援している。	○ 入居者の方が今日1日をどのように過ごしたいのかを常に意識した関わりを持っていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	お化粧をしたい方には、お化粧のお手伝いを、また本人の着たい服や好きな服で生活できるようにしています。	○ 現在は2ヶ月に1回、移動美容室が来ている状態です。入居者の方が今まで利用していた理容・美容室に行けるように支援していきたいです。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事をしたり、食事の準備やテーブル拭きを行って頂いています。	○ 食事の盛り付けやおはしを並べたりする比較的簡単な作業を入所者の方に手伝って頂けるように取り組んでいきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食べ物や飲み物の好き嫌いを把握して提供できるように努めています。	○ できるだけ本人の希望に沿った食べ物や飲み物を提供できるように支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄管理表を活用して個人個人の排泄サイクルの把握をするように努めている。	○	顔の表情やしぐさなどトイレに行きたいサインを見逃さないように取り組んでいきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回程入浴できるようにいつ入浴したいか、その都度聞いて好きな時間に入浴できるように支援している。	○	夜間に入浴の希望があった時に対応できない状況なので、夜間に入浴の希望があった時には対応できるようにしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人個人の現在の体調を把握し、昼食後のお昼寝や休息の時間を取り入れている。	○	毎日の生活を落ち着いて安心して暮らせるように支援していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の役割を持っていただいて張り合いのある生活を支援している。「いただきましょ」「ごちそうさまでした」の挨拶、テーブル拭きなどを行って頂いています。	○	入居者一人ひとりの個性や生活歴をより深く把握し、日々の生活の中での役割を見つけていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方一人ひとりにお小遣い帳を作成し、現金をお預かりしている。買い物に出かけた時には、その中から自分でお金を出して頂くようにしている。	○	お金の管理は入居者、職員、家族を交えて自分で全て管理できるようであればそのように支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回外食の機会を設けている。天気の良い日には、公園やドライブ、季節の花々を見に出かけている。	○	1日1回は天気の良い日には外に出て、外の空気も吸って頂くように支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お墓参りや自宅などへ職員付き添いのもと出かけている。	○	1年に1回、1泊2日の旅行ができないかと入居者の状態を考慮して検討中である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話が掛けられるようにしている。絵手紙など書いてはいるが現在施設内に貼ってあり来訪者には見ていただいているが、手紙のやり取りは現在は行っていない。	○	年賀状や暑中見舞いなどを書いて家族や友人とやり取りができるように支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人等が気軽に訪問できるように家庭的な雰囲気や自然なかたちで作れるように心掛けている。	○	来訪者が落ち着いて会話ができるような環境を作っていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて会議の中で勉強会を設け、正しい知識を得ている。	○	身体拘束をしないケアについて定期的な勉強会を職員間で開催していきたい。また研修があれば参加できるように努めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけておらず、自由に入居者の方が出入りできる状況である。また居室も鍵をかけていない。	○	開放的で自由な空間を形成していけるように努力していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を問わず入居者の方の現在の状況を把握できるように見守りや安否確認を行っている。	○	入居者の方のプライバシーに配慮した見守りや安否確認を行えるように努めていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみや爪切り、耳かき棒などは入居者の希望や状態により個人で管理されている方もいる。薬は全て職員が管理している。	○	またできそうな方がいれば、できるように支援していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりハット報告書も活用し、月一回の会議の中で職員間の意見交換の場を設けている。また未然に防止できるように努めている。	○	災害時の対応についての話し合いの場も設けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	1年に1回救命措置や心肺蘇生法などの訓練を消防署の協力を得て行っている。	○	1年に1回勉強会を行い、職員の応急手当の技術と知識の向上を図っている。これからも続けていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議の中で自然災害時における協力と応援要請について意見交換を行っている。	○	自然災害における非常食や飲料水、生活必需品などの準備をしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	月に1度入居者の方の状況報告書を作成し、面会時にその内容に報告している。またケアカンファレンス内にて危険リスクについての話し合いを行っている。	○	危険リスクの発生率が高くなっても入居者の方がいかにその人らしく過ごしていけるかを支援していけるようにしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化が見られた時には速やかにバイタルチェックを行うようにしている。またその日の勤務者に報告し情報を共有するようにしている。	○	顔色や表情の変化を見逃さないようにして体調変化の早期発見に努めていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人のケースファイルの中に現在服用している薬とその内容についての書類を保存し、職員が確認できるようにしている。	○	新しい薬を服用される時には、その後の状態や変化についてより詳しく記録していけるようにしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、ハチミツなどの整腸作用のある食材を使用することで、できるだけ自然排便して頂けるようにしている。	○	食べ物と連動のバランスを保ち、定期的に自然排便して頂けるように支援していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている。夕食後、義歯の方は義歯をはずして洗浄を行っている。	○	一人ひとりの歯の状態にあった口腔ケアを行っていきけるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態をそれぞれ考慮して普通食やキザミ食にしている。食事量や水分量は個々人の状態に応じた支援をし、飲み物はほうじ茶や玄米茶、ココアなどを常備し、できるだけ水分を取って頂くようにしている。	○	食べ残した場合には、その食べ物が嫌いなのか体調が悪いのかといった理由が分かるようにしていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後や毎食前、トイレに行かれた後には手を洗い、状況によりうがい等を行い予防につとめている。	○	勉強会を開催し、感染症にはどんなものがあるのか、また予防はどのようにしたら良いのかといった知識を深めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理表を作成し、定期的に調理用具の消毒を行っている。	○	食材を冷蔵庫から取り出して使用する時には食材の点検や賞味期限等を必ず確認していくようにしていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	車の駐車スペースを広く確保して誰もが気軽に立ち寄れるようにしている。玄関には花や観葉植物を置いて親しみやすい空間を形成している。	○	玄関やその周りは明るく清潔感のある空間であるように維持していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースでは誰もが落ち着いて過ごして頂けるように花や観葉植物を置いて家庭的雰囲気を作成している。	○	入居者の方が今まで生活してきた自宅のような空間を形成していけるようにしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間内でも一人で過ごすことのできるように少し離れたところにソファや椅子を配置している。	○	座る席や場所について入居者の間でトラブルになることがある。そのような時にはお互いに満足のいくように対応していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には入居者の方が今まで使用していた家具を持ち込んで頂いている。家族の写真や好みの雑誌も持ち込まれている方もいる。	○	入居者の方が居室へ行かれても、落ち着かれる居室空間を形成していけるようにしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に窓を開けて換気を行うようにしている。トイレ使用时には換気扇を回すようにしている。エアコンの設定温度はその日の天候によってその都度調節している。	○	職員の体感温度ではなく利用者の体感温度によってエアコンの設定温度を変えるようにしていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は段差のないバリアフリーの構造になっている。できるだけ自分の力で歩いて頂けるように手すりが廊下につけられている。	○	入居者のADLの状況によって建物内部の構造について話し合いの場を持ちたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室にはその方の名前プレートをかけて自分の部屋であることが分かるようにしている。	○	できるだけ自分で物事を認識して頂けるように声掛けを行ってきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	オープンデッキを使用して外気欲を行っている。	○	プランターの水やりや草むしりなどを職員と一緒に行っていきたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

外食や外出を行いホームの外に出てできるだけ外部からの支援を受けて頂くように支援しています。
1日1回は外に出て外の空気を吸って頂くように支援しています。